

●「オーバーシュート (Overshoot)」

相場は行き過ぎた値動きをすることがあります。

相場が行き過ぎて動くことを、オーバーシュート (Overshoot) と言います。

つまり、相場がチャート・ポイントを飛び越えるように、行き過ぎた値動きをすることです。

相場が上昇する場合ならば、「損切り」を巻き込んで、過度に上昇するような値動きのことを指します。

相場が下落する場合ならば、行き過ぎるほどに、突っ込んで急落するような値動きのことを指します。

相場がオーバーシュートすると、その後に「揺り戻し」が起こります。

——行き過ぎた値動きの修正が起こって、相場が反対に振れます——

+++++

●「揺り戻し」と「相場の綾」

オーバーシュートの説明をしたので、オーバーシュートが起こった場合の、その後の値動きについても、お話ししておきましょう。

相場がオーバーシュートした後で起こる修正のことを、「揺り戻し (修正/調整)」と言います。

相場が行き過ぎて売られたり、買われたりすると、その後で、その反対の動きが起こります。

売られ過ぎて相場が大きく下落した場合ならば、その後で、急な買い戻しが起こって、相場が急反発します。

買われ過ぎて相場が大きく上昇した場合ならば、その後で、頭が重くなり、相場が急落します。

「揺り戻し」と呼ぶ場合は、おもとの流れ (相場の動き) よりも値幅が小さくなります。

たとえば、相場が売られ過ぎて大きく下落した後で、揺り戻しが起こり、反転急反発しても、相場が下落を始めた水準まで戻るわけではありません。

揺り戻しが起こると、その水準で、小さな「持ち合い相場」を形成することが多いのです。

「綾（あや）」「綾戻し（あやもどし）」という言葉も使われますが、「揺り戻し」とほぼ同じ意味です。

ただし、「綾」「綾戻し」と言った場合は、必ずしも、相場がオーバーシュートしたときばかりを指すわけではありません。

相場がトレンドに従って動いているときに、一時的に、相場が逆方向に動くことがあります。

そういった一般的なケースでも、「綾」「綾戻し」を使います。

また、1日のような短い時間でも、時系列で相場を見ると、短いトレンドがあります。

相場は一方方向に動き続けることはないのです。そういった短い時間の中で、逆方向に振れることがあります。

この場合も、「綾」「綾戻し」と言います。

+++++

● 「綾」は、事前には、誰にもわからない

「綾」が事前に分かれば良いのですが、それを予測することはほとんど不可能です。

いつ起こるのか、どこまで逆行するのか、いつまで続くのかは、誰もが知りたいことですが、誰にも分かりません。

そのため大きな「綾」をトレンド転換と見誤ったり、大きな「綾」のせいでストップ・ロスがついたという経験をした投資家も多いでしょう。

とはいえ、ドル／円で何十銭の単位の反対側の「アヤ」といわれて納得できても、1円、2円も動いた状態までも「アヤ」と呼んで良いのか？

——そんな疑問を持つ投資家もいることでしょう。

しかし、私は5円程度の逆行は「綾」だと解釈しています。

つまり FX 取引では、その程度の「綾」は織り込んでおかなければならないということです。

繰り返せば「綾」はいつ起こるのか、どこまで逆行するのか、いつまで続くのかわからない。

ところがチャートを見ていると、必ずではないけれど、かなりの確率でトレンドとは逆に相場が動く時間帯があることがわかります。

結論から先に言えば、これは「綾」ではありません。

例えば東京市場は日本時間（以下同じ）で 8 時、9 時ごろから活発になります。

基本的に東京市場はニューヨーク市場の値動きの後追いなので、NY が下落すれば売る、上昇すれば買うという動きをします。

東京市場で午後の取引が行われている 15 時、16 時ごろになると、ロンドン市場が開きます。

そのときは東京市場の相場の流れとは反対側に大きく動くので、一見「綾」のようですが、実はロンドン勢が東京勢のストップ・ロスを狙って仕掛けた動きであることが多いのです。

正確な「綾」は誰にも分からないけれど、FX 取引の経験を積んでいくとなんとなく「綾」ではないかという感覚は養われます。

ただそうした目分量的なものは、言葉では説明のしようがありません。

+++++

(2019 年 02 月 05 日東京時間 12 : 30 記述)